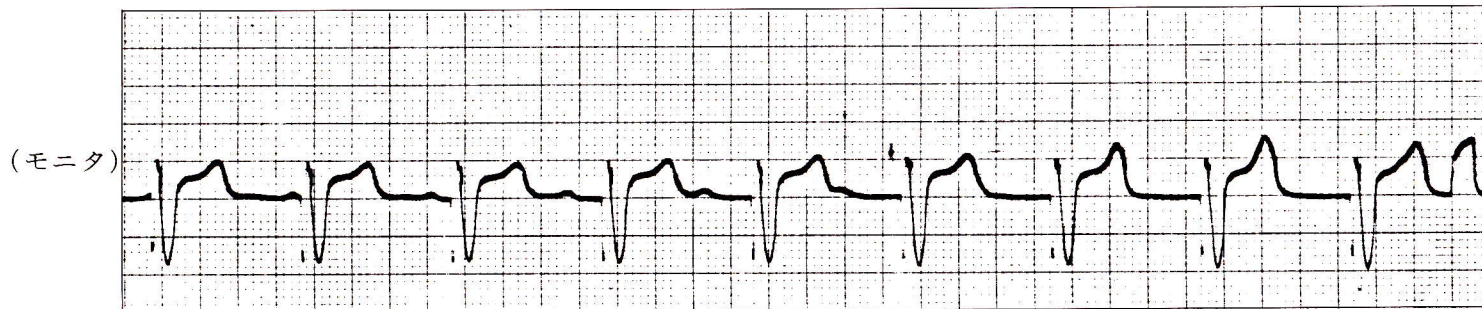


## 症例 58

●80歳 男

5年前より高血圧、完全左脚ブロックで通院していたが、昭和52年7月意識消失発作を2回起したため、某病院に入院、加療を受けた。



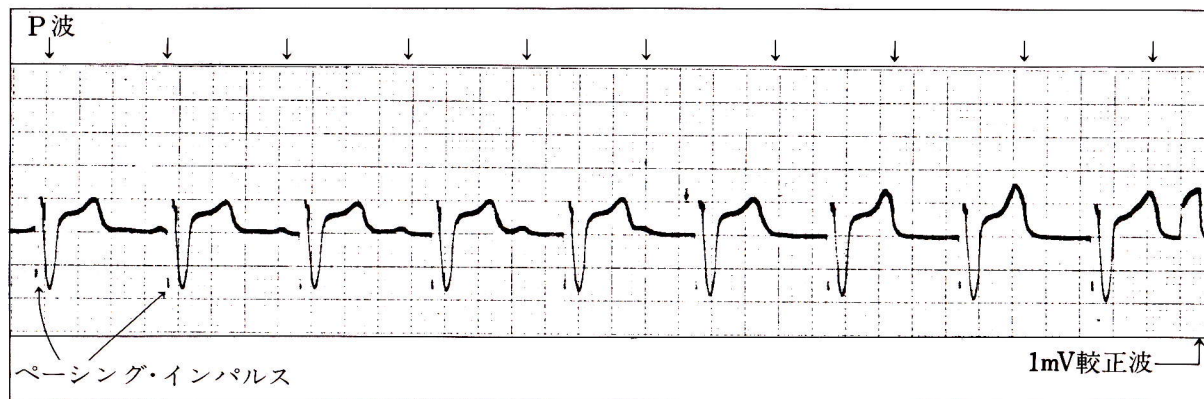
- 1) このリズムは何か。
- 2) 意識消失発作は何によるものか、もっとも考えやすいか。

## 心電図診断

## 完全房室ブロック→心室ペーシング

幅広いQRS波の直前に鋭い陰性のフレ(ペーシング・インパルス)。

P波(↓)はペーシングによるQRS波とは無関係に出現。



120

## 解説

房室伝導が正常であれば、P波につづいてQRS波がでなければならない。この症例では、例えば4番目、5番目のP波はペーシングによるQRS波の不応期からはずれているはずであるのに、QRS波を伴っていない。この所見は完全房室ブロックが存在することを示しており、意識消失発作や完全左脚ブロックの既往もこれを示唆している。